

# 連体修飾節における 「～タ」形と「～テイル」形について — 述定性という観点から —

金 春女

キーワード 連体修飾節、述定性、連体修飾節の構成要素、  
連体修飾節の種類、連体修飾節と被修飾名詞の間の「間」

## 1. はじめに

連体修飾節に現れる「～タ」形には、次のような、述定<sup>①</sup>には現れない形容詞的<sup>②</sup>用法が存在する。

- (1) 展示会には優れた作品がたくさん出揃っている。 (作例)
- (2) しばらくすると正面のドアが開き、眼鏡を掛けた細身の女性が姿を現した。 (作例)

(1)、(2)の下線部は、これを文に開くと、次のように「～タ」形にはならず、「～テイル」形になるのが普通である。

- (3) 作品が優れている。
- (4) 女性が眼鏡を掛けている。

しかし、上の(1)、(2)の「～タ」形を「～テイル」形に換えると、次のように程度の差こそあれ、不自然な文が生まれる。

- (5) \*展示会には優れている作品がたくさん出揃っている。
- (6) ?しばらくすると正面のドアが開き、眼鏡を掛けている細身の女性が姿を現した。

一方、次の(7)、(8)のように「～タ」形でも「～テイル」形でも自然に思われる場合もあれば、「～タ」形よりもむしろ「～テイル」形のほうが自然に思われる

る場合もある。

- (7) 車椅子の人は誰もが間違いなく障害者と認識しているが、眼鏡をかけた／ている人を障害者と認識するだろうか。(作例)
- (8) 現時点では優れている／?た脚力も、年をとるにつれて衰えるだろう。(作例)

このように、文末では同じ「～テイル」形が使われていても、連体修飾節では「～タ」形が最も自然である文、「～テイル」形が最も自然である文、両形態が同じ程度に使われると思われる文が存在する。

連体修飾節における「～タ」形と「～テイル」形はその容認度の判断が難しく、また、それぞれが選ばれる理由も複雑であると思われるが、本稿では、連体修飾節において「～タ」形と「～テイル」形が選ばれる理由を述定性という観点から考察する。

## 2. 先行研究と本稿の立場

形容詞的用法の「～タ」形に関する先行研究<sup>3)</sup>は数多くあるが、ここでは「～テイル」形との比較を行っている寺村(1984)、森田(1988)、加藤(2003)を取り上げる。

寺村(1984:197)は、「～タ」形を「～テイル」形の縮約形とし、典型的な形容詞的動詞<sup>4)</sup>は「連体(装定)で、述定の場合と同じように『～テイル』とすると不自然になる」と述べている。しかし、前掲の(8)は典型的な形容詞的動詞とされる「優れる」が使われた文であるが、「～タ」形よりむしろ「～テイル」形が自然に思われる。

寺村(1990)では、下に示すように「優れた」は誤用であるとして、それを「～テイル」形に直しているが、むしろ「～タ」形のほうが自然であるように思われる。

- (9) 何でもできる、優れた(→ている)国にしては消防隊員の動作がそんなに遅いのは本当に不思議です。(例文番号5404)(日本語学習者の文)

また寺村(1984)によれば、瞬間動詞、継続動詞<sup>5)</sup>のうち形容詞的動詞のように使われる動詞の場合、「～タ」形は「(他のものと比較しての)Nの外面的特

徴」(p.189) (Nは名詞を指す。以下同様。)を、「～テイル」形は「その(主節が表している)時のNの状態」(p.189)と「他者と比較してのありかた」(p.137)を表すという。

森田(1988)は、「～タ」形は恒常的狀態を、「～テイル」形は一時的狀態を表すので、初対面の人には「～タ」形が使われにくいとし、次の(10)は「～テイル」形がふさわしいとしている。

- (10) ほら、あそこにいる黒のサングラスを掛けている人、あれが犯人です。  
(p.170)

しかし、筆者が日本語母語話者を対象に行ったアンケートの結果では、この例文について、70%の被験者が「～タ」形を最適としている。したがって、森田の説明は厳密ではないといえよう。

一方、加藤(2003)は、「～テイル」形は未確定の意味、「～タ」形は確定の意味を表すとしている。しかし、あるものが確定であるか未確定であるかの判断は難しいと思われる。

以上の三つの先行研究は「～タ」形と「～テイル」形を時間との関係、あるいは意味という観点から考察している。本稿ではそれらとは違った述定性という観点からの分析を試みる。

### 3. 使用データについて

インターネット、小説、新聞から収集した実例および作例<sup>®</sup>を、在学生(学部生と大学院生)32人、社会人(会社員、主婦)8人の合計40人を対象にアンケートを行い、その結果を分析のための基本的なデータとするが、アンケートを行っていない例も一部用いる。

アンケートでは、文をあげ、( )内の動詞を最も自然だと思われる形に直すように求めた。このような質問の形式では、「タ」形を記入したから「テイル」形が非文であるという判断はできない。しかし、いずれがより自然であるかという判断はある程度得られる。このような判断を求めたのは、日本語母語話者が日本語を使用する際に、二者択一的な選択をしているのではなく、どちらかの形式を自然に使用していると考えたからである。もちろん、このようなアンケート調査には、記入された形態以外の形態が不自然であるという判断ができない、という欠点が存在する。また、この調査では年齢差、地域差、職業差を

度外視したことも欠点の一つであるということが出来る。また、アンケート調査の対象を増やすと異なる結果が出る可能性も存在する。

## 4. 分析

### 4. 1 「～タ」形と「～テイル」形の述定性

寺村（1984:200-06）は、次のような例文を用いて、装定（連体修飾）には「純粋な装定」と「述定を兼ねた装定」が存在すると説明している。

- (11) a. キノウ  $\left\{ \begin{array}{l} \text{ハゲシイ} \\ \text{*ハゲシカッタ} \end{array} \right\}$  雨ガ降りマシタ
- b.  $\left\{ \begin{array}{l} \text{*ハゲシイ} \\ \text{ハゲシカッタ} \end{array} \right\}$  雨ガ、夕方ヤット小降りニナッタ

(11a)は「本来の形容詞としての性格を強くもち、ある具体的な事柄を描くコトのかなめである述語としての性質がうすい。あるいは述語性を全く失ってしまっている」としたうえで、寺村は、このような連体修飾のことを「純粋な装定」と呼んでいる。一方、(11b)は、「具体的な事柄を描くかなめである述語としての性格を強くもつ」としたうえで、このような連体修飾を「述定を兼ねた装定」と呼んでいる。

本稿で扱う形容詞的用法の「～タ」形は、文に開いたときに「～タ」形にはならず、必ず「～テイル」形を取る。したがって、「～タ」形は述定としての機能が備わっていないといえる。つまり、「～タ」形は「純粋な装定」の形態であり、述定性がゼロであるといえる。これに対して、「～テイル」形は文末にも連体修飾節にも現れ、述定と装定の両機能を持ち合わせている。したがって、「～テイル」形は「述定を兼ねた装定」の形態であり、述定性を有する。

連体修飾節の述定性は連体修飾節の従属度と関係があると思われる。連体修飾節の中には、被修飾名詞に対する従属度の度合が高いものもあれば、低いものもある。従属の度合の低い連体修飾節は独立度が高くなり、それだけで一つの述定文としての機能も持ちやすい。一方、従属度の度合が高い連体修飾節は独立度が低く、被修飾名詞に従属していて、一つの文として機能しにくい。言い換えれば、連体修飾節の述定性が高くなればなるほどに従属度が低くなり、述定性が低くなればなるほどに従属度が高くなる。したがって、述定性が低く、従属度が高い場合には、「純粋な装定」である「～タ」形が優先して選ば

れ、述定性が高くなり、従属度が低くなれば、述定を兼ねた「～テイル」形が選ばれやすくなると考えられる。

では、どのような場合に述定性が高くなるのであろうか。以下の4.2～4.4で述定性に影響を与える要因を考察し、述定性と「～タ」形、「～テイル」形との関係を見ることにする。

#### 4.2 連体修飾節の構成要素と述定性

本節では、連体修飾節の構成要素と述定性との関係について考察する。

アンケートの結果を観察してみると、同じ「優れる」でも、「～テイル」形を最適としている割合に、次のようなばらつきが見られる。

表 1

例文番号	(12)	(13)	(14)	(15)
「テイル」形	0%	25%	25%	38%

- (12) 展示会には優れた作品がたくさん出揃っている。 (＝1)
- (13) シンポジウムでは学者や自動車会社の関係者らによる討論や試乗会、展示会があり、御堂筋パレードにも三十一台が参加。環境面で優れている電気自動車をアピールする。 (朝日)
- (14) 手軽でおいしく、栄養も優れている卵料理のベテランになりましょう。 (佐賀)
- (15) (運輸相の) 答申は、経済社会の成熟化に伴って国民の活動範囲が広がり、時間も貴重なものになっていると指摘。こうした変化に対応すると共に、東京一極集中を是正して国土の均衡ある発展をはかるためにも幹線交通システムの全国展開を進めるべきだと強調している。なかでも、大量輸送、時間の正確性の面で優れている鉄道の役割を重視。整備新幹線の建設促進、とくに計画の具体化している高崎―長野間、盛岡―青森間、八代―西鹿児島間など北陸、東北、九州の整備三線 五区間は今世紀中の完成を目指すべきだとした。 (毎日)

同じ「優れる」という動詞を用いた表現でも、文脈によって「～テイル」形の容認度が変わるのはなぜだろうか。上の例文を観察してみると、(12)の連体修飾節が「優れる」という動詞のみであるのに対して、(13)～(15)のそれは、「優れる」という動詞以外に、主語あるいは副詞的表現が含まれている。

益岡 (1987:83) は、「述語句は述語を主要素とし、これに従要素である補足

語と付加語<sup>7)</sup>が加わって構成される」としている。本稿では「優れた作品」のように連体修飾節が動詞のみで成り立っている場合は「一要素述語」と呼び、主要素である述語以外に補足語、付加語などの要素が存在する場合を「多要素述語」と呼ぶことにする。

連体修飾節が一要素述語である場合と多要素述語である場合とで、「～タ」形と「～テイル」形の現れ方にどのような差が生じるであろうか。次の(16)と(17)は連体修飾節が一要素述語の場合である。

- (16) 展示会には優れ(た/\*ている) 作品がたくさん出揃っている。(=1)  
 (17) どうしてあの子はいつも馬鹿げ(た/\*ている)質問ばかりするんでしょうね。  
 (作例)

これらの例では連体修飾節が一要素述語であり、アンケートの結果では、いずれも「～タ」形の記入が絶対多数を占めている。(16)では被験者全員が「～タ」形を最適とし、(17)では98%の被験者が「～タ」形を最適としている。

一要素述語には、それが述語として機能することを要求する要素が欠けている。そのため、文において述語としてではなく、連体修飾語として働きやすく、述定性を失いやすい。そのために、述定性が低く、連体修飾節の従属度が高いといえよう。特に、状態性述語として使われる典型的な形容詞的動詞は述定性を完全に失いやすい。したがって、(16)と(17)のように連体修飾節が一要素述語の場合、「～タ」形が使われやすくなる。

一要素述語が補足語あるいは付加語の修飾を受けて多要素述語になると、連体修飾節は述定性が高くなる。山梨(1995:173)は、「連体修飾の部分が高い表現になればなるほど、修飾部と主要部の緊密関係は相対的にうすれ、逆に修飾部の内容は主要部から独立し、……叙述が展開していく」と述べている。これは要するに、構成要素が多くなればなるほど、連体修飾節が主要部(被修飾名詞)から独立しやすいということ、つまり連体修飾節の独立性が強く、連体修飾節の述語の述定性が高くなるということである。したがって、述定性の高い多要素述語の場合には、「～テイル」形の容認度が高くなる。次の(18)のような文では、「～タ」形よりむしろ「～テイル」形のほうが使われやすいといえよう。アンケートでは、75%の被験者が「～テイル」形が最適としている。

- (18) 自分の行為が馬鹿げている人に限って、真っ先に人を中傷する。  
 (<http://www.alpha-net.ne.jp/users2/mi2yuki/kakugen/sitto-tyuusyou.html>)

ところで、構成要素によっては述定性、独立度を高くするものと、そうでないものがあるように思われる。形容詞を修飾することができる程度副詞などは、動詞の述定性に影響を与えないと考えられる。次の(19)はそのような例である。

- (19) 理由がないために、行動が起こせないなんていうのは 実に馬鹿げ (た／? ている) 話だね。

([http://sun.endless.ne.jp/users/cypher/core/file1/1\\_4.html](http://sun.endless.ne.jp/users/cypher/core/file1/1_4.html))

(19)の連体修飾節に使われている「実に」は、形容詞を修飾する副詞であり、動詞を修飾することができないのでおそらく述定性に影響を与えない。そのため、(19)の連体修飾節は述定性が低く、「～テイル」形の容認度が低い。アンケートの結果では、全員が「～タ」形を最適としている。

上述のように「実に」のような程度副詞は連体修飾節の述定性に影響を及ぼさないが、次に、述定性に影響を与える要素について考察する。

まず最初に、連体修飾節中に動作主が存在する次のような例を取り上げる。

- (20) 松嶋菜々子さんが着 (ている／? た) 花柄のスカートはどこのブランドのものでしょうか？

([http://www.televito.com/q\\_a/index\\_2.html](http://www.televito.com/q_a/index_2.html))

- (21) ハリーポッター少年が掛け (ている／? た) メガネは丸型で一山ブリッジです。

(<http://www.haruta.com/harry-2.html>)

これらの例では、連体修飾節中に動作主が存在することにより、動作主の動作という述定性が要求される。そこで、このような場合、述定と装定のうち述定が優先され、「純粋な装定」である「～タ」形が使われにくくなる。寺村(1984)は、連体修飾節中に「ガ格」が存在するときには形容詞的用法の「～タ」形になりにくいとしているが、それも、装定より述定が優先されるからであるといえよう。

次に、連体修飾節中に副詞節が存在する場合について考察する。

- (22) [妻に逃げられながらも充実 (している／\* た)] 彼を見て、「大人になる」ということをもう一度考え直す卓也。

(<http://www.earthian.com/manten/list-live5.html>)

- (23) A：理香って、大食いなのに痩せているけど、なぜ？

B: [大食いなのにやせ (ている/?た)] 人は胃下垂なのよ。

(<http://homepage2.nifty.com/osiete/s502.html>)

(24) [怪我をしたので馬に乗っ (ている/?た)] 兵士さんもいる。

(作例)

これらは、連体修飾節中に副詞節が含まれている例である。(22)と(23)には逆接を表す副詞節が、(24)には原因、理由を表す副詞節が存在している。このような副詞節が存在することによって、連体修飾節は装定という働きをすると同時に、述定として副詞節の修飾を受けなければならない。つまり、装定と述定の両方の働きが必要となる。したがって、「純粋な装定」である「～タ」形より「述定を兼ねた装定」である「～テイル」形が使われやすくなるのである。

ちなみに、名大コーパス<sup>®</sup>には、「優れる」が「～テイル」形で使われている用例が31例みつかると、そのうち30例は次の(25)のように連体修飾節が多要素述語の文である。

(25) 障害者の中には、一部機能が不自由でありながら、それ以外の機能、体力、感性が優れている人はたくさんいる。 (毎日)

このように、コーパスの検索結果からも、一要素述語の場合には「～タ」形が選択されるのに対して、多要素述語になると「～テイル」形が使われやすくなるということがいえる。

以上で考察したように、連体修飾節が一要素述語の場合には述定性が薄れ、述定というよりは装定として機能しやすくなる。そして、「純粋な装定」である「～タ」形が使われやすくなる。他方、一要素述語であった連体修飾節に述定性を強める他の成分（動作主など）が加わると、述定性が高くなり、「～テイル」形が使われやすくなる。装定と同時に述定が必要とされる場合には「～タ」形を使うと不自然になるのである。ただし、装定と述定のどちらが優先されるかということに関して、明確な境界線が存在するわけではない。

#### 4.3 連体修飾節の種類と述定性

連体修飾節は、それと被修飾名詞との関係により、「内の関係」と「外の関係」<sup>®</sup>に分けられる。修飾節中の述語と被修飾名詞との間に何らかの格関係がある場合、これを「内の関係」という。例えば、「きのう読んだ本はおもしろかった」という連体修飾文をみると、修飾節の述語「読んだ」と、被修飾名詞「本」との間には、ヲ格の関係が存在する。一方、修飾節中の述語と被修飾名詞との



間に格関係がない場合、これを「外の関係」という。例えば、「さんまを焼いているにおいがする」という文では、修飾節の述語「焼いている」と、被修飾名詞「におい」の間には、どのような格関係も成り立たない。

「外の関係」のうち、次の例におけるように「コト」を表す名詞が被修飾名詞になる場合には、連体修飾節の従属度は比較的低いように思われる。

- ②⑥ 「今昔物語」にある藤原保昌が大盗人袴垂保輔を摺伏せしめた話は有名であるが…… (寺村1992: 277)

この例では、被修飾名詞である「話」と連体修飾節の間に「という」が介在することが可能である。したがって、このような「外の関係」では、被修飾名詞と連体修飾節の関係は緊密ではなく、連体修飾節の従属度は低い。これはつまり、連体修飾節の独立度が高いということである。寺村(1992: 267)は、「外の関係では、修飾節のムード、陳述度は、内の関係より一般的に高い」と述べている。ムード、陳述度が高いというのは、一つの述語文としての独立性が高いことを意味する。したがって、「外の関係」では連体修飾節の述定性が高く、「内の関係」の場合ではそれが低いということになり、「外の関係」では「～テイル」形が、「内の関係」では「～タ」形が使われやすいということになる。次の例文をみてみよう。

- ②⑦ イタリア料理のオードブルに「生ハムとメロン」という組み合わせがありますね。そのおしゃれな食べ合わせには、栄養学的にも優れ(た／?ている)理由があるのをご存知ですか？

(<http://www.kitayasai.com/health/effect/200208001.html>)

- ②⑧ 悠季が僕のためなどという馬鹿げ(た／\*ている)理由で東宮になったのなら、そのまま悠季を連れて逃げます。

(<http://members.jcom.home.ne.jp/berylcloisters/thanks/arara/arara19.html>)

これらは、「内の関係」の連体修飾節で、「理由」がどのようなものであるかを述べた文である。いずれにおいても、連体修飾節の従属度が高く、独立性が低いいため、「～タ」形が使われやすい。一方、次のような「外の関係」の連体修飾節はどうだろうか。

- ②⑨ ビデオテープよりも DVDが優れ(ている／\*た)理由は何ですか。

([http://www.sonicjapan.co.jp/dvdit\\_23/faq/about\\_faq1.html](http://www.sonicjapan.co.jp/dvdit_23/faq/about_faq1.html))

- (30) 現代の便利な生活をそっくりそのまま保持したまま、世界から人がすっかり消えて、自分と恋人が新しい世界のアダムとイブになれば素敵かもしれない……。もちろんこんなものは、10代のガキンチョだけが夢見る馬鹿げた妄想だ。この妄想が馬鹿げ（ている／＊た）理由は、何らかの外的な事情で「愛する人とふたりきり」になることが強制されるということ自体が、そもそも地獄に他ならないからだ。

(<http://www.eiga-kawaraban.com/02/02022101.html>)

(27)も(29)も連体修飾節には「優れる」が使われ、被修飾名詞は「理由」である。しかし、(27)では「～タ」形が使われやすく、(29)では「～テイル」形が使われやすい。(28)と(30)の「馬鹿げる」も同様である。

前掲の(12)～(15)では、連体修飾節の構成要素が増えることによって「～テイル」形が使われやすくなっているが、「～テイル」形が最適であるとした被験者は多くて38%である。しかし、(29)と(30)はそれぞれ95%と93%の被験者が「～テイル」形を最適としている。これは、連体修飾節が一要素述語であるか多要素述語であるかといった要因の影響も受けているが、前述した「内の関係」と「外の関係」の従属度の相違に起因すると考えられる。(29)と(30)<sup>99</sup>は、次のように言い換えることができる。

- (29) ビデオテープよりも DVDが優れている。その理由は何ですか？  
 (30) この妄想は馬鹿げている。その理由は……

一方、(27)と(28)はこのような言い換えができるだろうか。

- (27) ＊イタリア料理のオードブルに「生ハムとメロン」という組み合わせがありますね。そのおしゃれな食べ合わせには、栄養学的にも優れている。その理由があるのをご存知ですか？  
 (28) ＊悠季が僕のためなどという馬鹿げている。その理由で東宮になったのなら、そのまま悠季を連れて逃げます。

(27)と(28)を(27')と(28')のように言い換えると、不自然な文が生まれる。このことは、「内の関係」よりも「外の関係」のほうが連体修飾節の従属度が低いということを裏付けているといえよう。従属度が低いというのは、連体修飾節の独立性が高く、述語文として独立することが要求されるということである。したがって、述定性を有する「～テイル」形が使われやすいのである。

寺村（1982：14）は、次の③1)は「～テイル」形がふさわしいとしている。

③1) この作品のすぐれている点は……（\*すぐれた点は……）

ところで、③1)は、次の③1')の a、b のような 2 通りの解釈が可能であると思われる。

- (31') a [この作品のすぐれている] 点は……  
 b この作品の [すぐれている] 点は……

③1'a)は、「この作品のすぐれている」全体が「点」を修飾している場合であり、③1'b)は、「すぐれている」が「点」を修飾している場合である。つまり、③1)は「外の関係」とも「内の関係」とも読み取れるのである。したがって、「外の関係」である③1'a)の場合には「～テイル」形が使われやすいが、「内の関係」である③1'b)の場合には「～タ」形と「～テイル」形のどちらも容認されると思われる。寺村（1982）の判断は、③1)が「外の関係」と判断した場合であろう。

このように、一つの文が「内の関係」とも「外の関係」とも読み取れる場合があり、どちらと判断するかにより、「～タ」形と「～テイル」形の容認度が変わる場合もある。

以上、考察してきたように「内の関係」より「外の関係」のほうが「～テイル」形が使われやすい。これは、「外の関係」では連体修飾節の独立度が高く、述定性が要求されるからである。しかし、前掲した(8)のように、述定性を要求する要素が存在することにより、「内の関係」でも「～タ」形より「～テイル」形が使われやすい場合がある。

#### 4. 4 連体修飾節と被修飾名詞の間の「間」と述定性

前掲の(2)をふたたびあげて、連体修飾節と被修飾名詞の間の「間」と述定性について考察する。

③2) しばらくすると正面のドアが開き、眼鏡を掛け（た／？ている）細身の女性が姿を現した。 (＝2)

この文は、「～テイル」形を用いると不自然に思われるが、次のように「ている」の後ろに点を入れる（話しことばの場合にはポーズを置く）と、容認度が高くなる。

- ③3 しばらくすると正面のドアが開き、眼鏡を掛けている、細身の女性が姿を現した。

このように連体修飾節と被修飾名詞の間に点を入れるのみで、容認度が変わるのとはなぜであろうか。その理由として考えられるのは、③2と③3の連体修飾節の述定性の違いである。③2では、「眼鏡を掛けた」と「女性」との関係が密接で、連体修飾節が述定というよりは装定として機能しやすい。一方、③3では、連体修飾節と被修飾名詞の間に点が入ることによって、「眼鏡を掛けている」という部分の被修飾名詞に対する従属度が低くなり、独立度が高くなっている。このように連体修飾節の「掛ける」が述定としての役割も果たすようになり、「～テイル」形の容認度も高くなると考えられる。次の③4についても事情は同じである。

- ③4 僕は途中でコーヒーハウスに入って、一服し、ブランデーの入っ(た／?)  
ている)熱くて濃いコーヒーを飲んだ。(ダンス)

このままでは「～テイル」形が不自然に思われよう。しかし、「ブランデーの入った」の後ろに点を入れてみると、「～テイル」形の容認度が高くなる。

- ③5 僕は途中でコーヒーハウスに入って、一服し、ブランデーの入っている、  
熱くて濃いコーヒーを飲んだ。

これは要するに、連体修飾節と被修飾名詞の間に「間」を置くことにより連体修飾節の述定性が高くなり、「～テイル」形の容認度も高くなるということである。

## 5. おわりに

連体修飾節における「～タ」形と「～テイル」形の使い分けについて、本稿では述定性という観点から検討した。検討結果は次のようにまとめられる。

「～タ」形は「純粋な装定」で、述定性を持たない。一方、「～テイル」形は「述定を兼ねた装定」で、述定性を持つ。したがって、述定性が要求されない連体修飾節では、「～タ」形が優位に立ち、述定性が要求される連体修飾節では

「～テイル」形の容認度が高くなる。そして、述定性の有無、ないしは高低に、連体修飾節の構成要素の数、「外の関係」と「内の関係」といった連体修飾節の種類、連体修飾節と被修飾名詞に「間」がおかれているかどうか、が影響している。

「優れる」、「馬鹿げる」などの典型的な形容詞的動詞と「太る」、「着る」などの変化動詞は通常性格の違うものとされ、分けて分析される場合が多いが、本稿では同レベルで考察を行った。その結果、述定性という点においては同じことがいえると考えられる。

連体修飾節における「～タ」形と「～テイル」形の研究には、例文の適格性に関する判断の曖昧さ、両形態の使い分けに関する境界線の不透明さなど複雑な問題がからみ合っている。また、連体修飾節における「～タ」形と「～テイル」形の選択に影響を及ぼす要因は本稿で検討したものが全部であるというわけではなく、現象文のような文のタイプなどとも何らかの関係があるように思われるが、いずれの問題も今後の課題としてさらなる分析を試みていきたい。

## 注

- (1) 「述定」は文末表現に相当し、「装定」は連体修飾節に相当する。
- (2) 「形容詞的」という用語は、寺村（1984）によるが、本稿では「ある状態を表し、時間性から離れていて、非時制的である」という意味で「形容詞的」という用語を用いる。
- (3) 「～タ」形に関する先行研究には、ほかにも高橋（1994）、工藤（1983、1985）、金水（1994）などがある。
- (4) 典型的な形容詞的動詞とは、「優れている」、「堂々としている」のように、常に「～テイル」の形で形容詞的に使われる動詞のことである。金田一（1950）では、「第四種の動詞」として扱われている。
- (5) 金田一（1950）の分類。動詞を状態動詞、継続動詞、瞬間動詞、第四種の動詞に分類している。
- (6) 本稿ではインターネット上の実例も使用しているが、これらにはやや不自然な表現も含まれている。作例は筆者が文を作り、日本語母語話者に確認してもらった。
- (7) 補足語とは述語にとって必須の成分となる要素のことであり、付加語とは述語が表す内容を詳しくする働きを持つ随意的要素のことであり、「先日、太郎が花子と外国で密かに結婚した」の場合、「太郎が」と「花子と」が補

- 足語、「先日」、「外国で」、「密かに」は付加語である。詳しくは益岡（1987: 81-83）を参照。
- (8) 「平成12年度名古屋大学教育研究改革・改善プロジェクト（国際言語文化研究科）」の一環として整えられたコーパスサーバー内の日本語コーパスから選んだ以下の4つのコーパス。①毎日新聞1991年から1999年の9年分の記事のコーパス、②インターネットの電子図書館『青空文庫』に収録されている707点の作品からなるコーパス、③CASTEL/Jプロジェクトの編纂による講談社の新書をはじめとする49の刊行物のコーパス、④CASTEL/Jによる映画『男はつらいよ』シリーズ48本分のシナリオのコーパス。2004年1月の検索結果による。
- (9) 寺村（1992）の分類である。奥津（1974）は、「同一名詞連体修飾」、「付加名詞連体修飾」という用語を用いている。また、「内の関係」であるか「外の関係」であるかの判断が難しい文もある。本稿では⑩、⑪を「外の関係」と考えているが、「ある理由で」といった格関係があるとすれば「内の関係」であるとも考えられる。しかし、「理由が」とは異なる格関係であるため、「外の関係」として扱う。
- (10) ⑫は、「～という理由でDVDがビデオテープより優れている」と考えれば「内の関係」と考えられるが、(29)のように言い換えが可能であることから、「外の関係」と判断する。⑬も同様である。

## 参考文献

- 奥津敬一郎（1974）『生成日本文法論—名詞句の構造—』大修館書店
- 加藤重広（2003）『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房
- 金水 敏（1994）「連体修飾の『～タ』について」『日本語の名詞修飾表現』田窪行則編くろしお出版
- 金 春女（2005）『現代日本語の連体修飾における「タ」形と「テイル」形の比較分析』名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻修士論文
- 金田一春彦（1950）「国語動詞の一分類」『言語研究』第15号
- 工藤力男（1983）「連体用法の『た』の解釈—アスペクト試論—」『岐阜大学国語国文学』16号
- 工藤力男（1985）「形状動詞の諸相」『岐阜大学国語国文学』18号
- 寺村秀夫（1978）『日本語教育指導参考書4 日本語の文法（上）』大蔵省印刷

## 局

- 寺村秀夫 (1982) 「テンス・アスペクトのコト的側面とムード的側面」『日本語学』第一巻 第2号 明治書院
- 寺村秀夫 (1984) 『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版
- 寺村秀夫 (1990) 『外国人学習者の日本語誤用例集』科学研究費報告書
- 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集Ⅰ—日本語文法編—』くろしお出版
- 高橋太郎 (1994) 『動詞の研究 動詞の動詞らしさの発展と消失』むぎ書房
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法』くろしお出版
- 森田良行 (1988) 『日本語の類意表現』創拓社
- 山梨正明 (1995) 『認知文法論』ひつじ書房

## 用例出典

(佐賀) / 佐賀新聞、(朝日) / 朝日新聞 (『聞蔵 (さくぞう) Ⅱ ビジュアル for Libraries』)、(毎日) / 毎日新聞1991～1999年、(ダンス) / 『ダンス・ダンス・ダンス』村上春樹、講談社文庫、検索エンジン (検索期間は2004年4月～12月) Google:<http://www.google.co.jp/>

